

平成24年度九州大学大学院法学府
入学者選抜試験（秋季）問題概要

課 程： 修士課程
科目名称： 英語（公法）

問 1

主題

分量 66 行

形式 部分訳

1. 問題数に応じて 問題ごとに主題・分量・形式 を記入してください。
問題数が3問以上となる場合には、項目を追加して記入してください。
2. 課程欄には、修士課程または博士後期課程と記入してください。
3. 科目名称欄には、試験問題と同様の名称を記入してください。
4. 主題欄には、出題文のタイトルを記入してください。
5. 分量欄には、出題文の行数を記入してください。
6. 形式欄には、全訳、部分訳、要約などの出題形式を記入してください。

平成24年度九州大学大学院法学府
修士課程入学試験問題（秋季）

英語（公法・社会法学（社会法））（実定法学（社会法））

課題文は、日本の雇用差別禁止法（註）について議論するものです。この文章を読んで以下の問いに答えて下さい。なお、文中のLSAは労働基準法（Labor Standards Act）の略語です。

問一 筆者は、差別禁止立法には「人権アプローチ（human rights approach）」と「雇用政策アプローチ（employment policy approach）」の2種類が存在しうると述べています。それぞれのアプローチの内容と特徴を説明してください。

問二 日本において男女間に大きな賃金の格差が生じる典型的な場面はどのような場合か、日本の賃金決定システムに関する課題文の説明と関連づけながら指摘してください。

問三 下線部で筆者が指摘している労基法4条の「差別」概念の限界とはどのようなものか、説明してください。

註： 本問では、「戦後の日本における雇用差別禁止法」と題した章のみを抜き出している。解答にあたっては課題文に登場する情報のみを扱うこととし、その後の法改正については考慮しなくてよい。